

Mitsubishi Corporation Presents

エリソ・ヴィルサラージェ & アトリウム弦楽四重奏団

11/28 火

19:00開演



ELISSO VIRSALADZE & ATRIUM STRING QUARTET

ヴィルサラージェは2014年、11年ぶりに日本でのステージに立つて以来、演奏家、そして教育者としてたくさんの感動を与え続け、彼女の演奏を待望する声は広がり続けています。ヴィルサラージェの音楽性で特筆すべきは、ロシア・ピアノ・アニメズの良き伝統を受け継ぎながら、「瑞々しさ」を持ちあわせていることです。世代をつなぐ架け橋となり、常に前進することを心がけているヴィルサラージェが、アトリウム弦楽四重奏団とともに紀尾井ホールで聴かせてくれる音楽は…。

エリソ・ヴィルサラージェは、1942年グルジア共和国(現・ジョージア)に生まれ、名教師である祖母のアナスタシア・ヴィルサラージェの手ほどきを受けました。アナスタシアは、リストとともに現代のピアニストの系譜の礎となった人物レシエツキの弟子で夫人でもあるアンナ・エシポワ門人には、プロコフィエフがいるに師事し、エリソが幼少の頃、アナスタシアの家にはよく、ロシア・ピアノアニメズの偉大なる指導者たちが集まっていたといえます。また後に、エリソはモスクワ音楽院でゲンリヒ・ネイガウス(リヒテル、ギリリスの師)、ヤコフ・ザーク(アファナシエフの師)ら巨匠たちに学び、ロシア・ピアノアニメズに求められる完璧な技巧や叙情性はもちろん、演奏者に考える自由を与えて、個性を育てる教えを受け、そのことがヴィルサラージェの演奏や指導法に多大な影響を与えています。

共演するアトリウム弦楽四重奏団は、ロンドンやボルドーといった国際コンクールで優勝した輝かしい経歴を持つカルテット。今回ヴィルサラージェと初共演になりますが、アトリウム弦楽四重奏団の音源を聴いたヴィルサラージェは、彼らの演奏にとても良い印象を持ち、「初共演だからこそ楽しみ」と述べています。その彼らと贅沢にも4曲のうち3曲を共演します。

まず最初に演奏するモーツァルトは、ヴィルサラージェが「多くのテクニックを習得したのは、モーツァルトのピアノ・ソナタから」というほど、彼女の演奏技術の基礎となっている重要な作曲家です。ショスタコーヴィチのピアノ五重奏曲は、ヴィルサラージェがボロディン、オイストラフ両カルテットと度々共演してい



ます。ボロディン弦楽四重奏団とは、ウイグモア・ホールで高熱を出しながら演奏したそうですが、「かえって集中力が増してすごくよく弾けた」と、ヴィルサラージェの中で忘れがたい思い出の曲となっています。また、アトリウム弦楽四重奏団はショスタコーヴィチの弦楽四重奏曲15曲を一日で演奏しきる公演「ショスタコーヴィチ・マラソン」を東京、フランス等で大成功させていますので、この共演は聴きものです。

最後を飾るのは、リヒテルがヴィルサラージェを「当代随一のシューマン奏者」と称賞したシューマン。そのシューマンの五重奏曲はヴィルサラージェいわく、「大昔から演奏している馴染みのレパートリー。しかし、「作曲家の意図から離れてはいけないが、いつも新鮮な演奏を目指している」というヴィルサラージェの言葉どおり、初共演、そして世代の離れたアトリウム弦楽四重奏団との演奏だからこそどのような音楽が生まれるのか、いやが上にも期待が高まります。

このプログラムは、紀尾井ホールのために、演奏者とホールの間で会話を重ねて作り上げたオリジナルのもので、ここぞしか聴けない一夜をどうぞお聴き逃しなく。